

社団法人 日本補綴歯科学会
発行人 赤川安正 編集 広報委員会
〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
社団法人 日本補綴歯科学会
Tel 03-5940-5451 Fax 03-5940-5630

Japan Prosthodontic Society



Letter for Members No.21 2006

<http://www.hotetsu.com/> 2006.4.10 発行

コンテンツ	受賞者の声	9
躍動する本学会の方向性	関連学会報告	9, 10
歯学教育の変化	関連学会案内	10, 11
第115回大会の開催にあたって	写真公募! 「補綴(ほてつ)シャッター	
支部会報告	チャンス! 2006」	12

躍動する本学会の方向性

社団法人日本補綴歯科学会
理事長 赤川 安正

社団法人として発足した日本補綴歯科学会は、社会・市民に向けて明確な義務と責任をもって行動すると誓ってほぼ1年、新しく生まれ変わった学会として歩み始めてきました。新設した委員会を含めて17の委員会は、それぞれ目標とした課題を少しずつ着実に達成しつつあります。副理事長、理事、監事、委員長、副委員長の方々、また委員会の委員の皆様、そして代議員、会員の皆様、事務局の皆様のご支援に厚くお礼を申し上げます次第です。

新たな歯科補綴学の枠組みを目指すためのストラテジックプランは新潟の第114回大会シンポジウムで議論され、方向性の承認をいただきました。また、点検評価に基づいて、大会企画の目的・対象を明確化した新しいイメージの学術大会は、年1回化の最初となる第115回の札幌大会で姿を現します。多くの催物と過去最高の210演題が用意され、必ずやすばらしい討議となるでしょう。MEDLINEに収載されている和文誌に続いて、収載を目指す英文誌 Prosthodontic Research & Practice (PRP)は Associate Editor に世界の歯科補綴のリーダー達をも組み込み、装いも新たに年4号化の第1号が発行されました。会員

の皆様には是非ともこのPRPを育ててほしいと思います。その手助けとしてのPRPセミナーは新潟大会を初回として支部大会でも続けており、多くの方々の投稿を待つところです。

社団法人となり、経理・財務処理にさらに専門的知識を必要としますが、事務局長・法人事務局、(財)口腔保健協会とのコンビネーションのもと、一步一步進めてきました。札幌では法人としての初の決算を行わなければなりません。試行錯誤でご迷惑をおかけしていますが、もう少し進行を見守っていただきたいと思います。法人化を支えてご苦労いただいた鈴木局長が3月末で退任されます。本当にご苦労さまでした。4月からは、新しく小西局長を迎えています。

国際化では、中国との交流がもうすぐ実現するはこびです。さらに、本年4月のThe Korean Academy of Prosthodontics との Joint meeting (ソウル)、2007年4月のAsian Academy of Prosthodontics との Meeting(神戸)、10月のGreater New York Academy of Prosthodontics との Joint meeting (東京)など、海外交流は目白押しであり、会員が主体となる学術・友好交流をお願いいたします。

用語はわれわれの専門性を説明する根幹のものであり、学会用語集のブラッシュアップが進めら

れており、さまざまな歯学領域においてこれらの用語の採用をさらに働きかけたいと思います。医療の質の向上と補綴歯科の専門性の確立を目指す症型分類は、完成を目指して第2回のトライアルを進めており、症型分類への意見をどしどしお寄せいただきたいと思います。

法人化がスタートしてもまだまだ会則の充実が不可欠です。会則等検討委員会の献身的な努力により、一層の充実が進みましたので、実情をよく見据えて、会員の皆様の意思を尊重する緩やかな運用を図っていく所存です。

学会活動の成果の公表と補綴の周知を目指して、ホームページのリニューアルを行い、Letter for Members も充実させ、会員と市民ヘリアルタイムで情報を提供しています。どうかアクセスやご意見をお願いします。

教育問題も学会主導で発言する大きなテーマですが、研修医の必修化のスタートと相まって、補綴の知識と実技のミニマムリクワイアメントについて提言の準備を進めています。補綴治療の質の向上を目的とした非会員のための生涯学習公開セミナーは、大山執行部で順調にスタートしたことを引き継ぎ、全ての支部大会で活発に行っており、地域密着・地域貢献をさらに進めます。

補綴治療の質の向上のドライビングフォースは専門医制度です。昨年8月の臨時総会で承認いただいた従来の認定医制度に代わる「学会が認定する新しい専門医制度」は、広告開示を可能とすべく、日本歯科医学会認定医・専門医協議会で十分議論され、日本歯科医学会でも「可」とする承認をいただきました。現在、厚生労働省に申請をしています。皆様とともに、申請が許可される日

を待ちたいと思います。日本歯科医師会に理解いただく努力を続けながら、次の専門医にも思いをめぐらせています。

社会とより向き合うための活動は8つの市民フォーラムで具体化されました。今後、さらに多くの市民フォーラムなどを実施し、ニーズに応じて地域歯科医師会との共同開催も実現させる予定です。

厚生労働省から日本歯科医学会や日本歯科医師会疑義解釈委員会に投げられた問題点は社会保険委員会で真正面から受けとめ、アカデミズムからの回答を行っています。今度の保険改正は厳しいものでしたが、これをリストラクチャリングのスタートと位置づけ、次の20年度の改正には学会主導の改正を是非とも提案したいと考えます。ガイドライン委員会でのガイドライン作成に合わせて、学会から社会保険改革への提言は必ず行うつもりです。

「補綴歯科専門医」の「補綴」の認知の活動は地道に行っています。今後、専門医の広告開示が認められると、周知の徹底は社会への「大きな約束」であり、あらゆる手段を通して補綴歯科の周知を図っていきたく考えています。

このように、今年度は、昨年度に続きテーマの成就に向け、さらに進みたいと決意を新たにしています。会員の皆様とともに社団法人としての大きな義務と責任を改めてここに確認し、それらを皆で共有し、より社会と市民に役立つ「歯科補綴の未来価値」を創造したいと考えます。

会員の皆様の一層のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

最近の歯科補綴学教育事情 共用試験を中心に

Computer Based Test (CBT) について

卒業試験、歯科医師国家試験シーズンもひとまず終わり4月の新学期まで、つかの間のエアポケット状態に浮遊されている先生方も多いと思います。平成17年度の冬シーズンから共用試験実施機構が主催する歯科系CBT、OSCEが本格実施となりました。ここでは歯科補綴学教育からみたCBTの捉え方について作問委員を経験した

者の立場から述べたいと思います。

筆者は1972年学部卒業という世代で、少なくとも30年前であれば臨床実習前の学生の基礎学力の確認などは各大学歯学部にて任されていたし、そもそも臨床実習を行うのが大学附属病院の役割で、その趣旨を理解したうえで患者さんが来院してくれていました。多くの歯学部が多くの卒業生を輩出した結果、巷には歯科医院が溢れ、過日NHKの番組でも取り上げられた札幌市のような

極端な歯科医師供給過剰となっているのは都市だけでなく、田舎でも少なくありません。そんな状況下で歯学部の実習を行うには法規上の環境を整える一方、国民に対し「臨床実習学生は十分な学力を有し、臨床実習を円滑に実行できるぞ」と胸を張って宣言できる全国的な仕組みが必要であるということで医学系から始まった試みが歯学系にも波及し、今日のCBT、OSCEの本格実施に至ってきたわけです。

当初CBTは「中央から押しつけられたアチーブメントテスト」という評価が多かったように思います。書式に則った問題作成のわずらわしさ、使用用語、使用イディオムの規定等々、本来自由人であると思っていたわれわれ大学教員にとってはかなり抵抗感のあるシステムでした。しかし、このシステムに仮に参加しない場合の大学・学生の不利益を斟酌した場合、むしろしち面倒くさいシステムを逆手にとって学生教育に有効に利用する手立てを考えるべきでありましょう。

現在、日本の歯学部は29校あり、それらの入学時偏差値は71～45に分布しておりわれわれ教員の教育努力にもかかわらず、多くの学部でかなりの数の成績不良者、留年者、歯科医師国家試験不合格者を生じております。各学部とも対応の努力を行い、カリキュラム改革、FD(Faculty Development)などめまぐるしく行っているところです。ここでCBTの位置づけを考えると、「臨床実習前の知識のチェック」ということで例のコアカリキュラムに基づいた出題がされます。CBTには4年までの学業チェックという機能があるので、教員が担当する個別科目のカリキュラムはコアカリをすべて尽くし、さらに独自の学科内容を加え、とにかくCBTに備えてあげなければ学生にとってかわいそうです。学部によっては4年までの知識を繰り返し、繰り返し教育する「復習」システムを取り入れ、CBTの実施時期を可及的に後ろに送り、歯科医師国家試験への総合学習につなげるという対応を行っているところもあるようです。

歯科補綴学関連のCBT作問委員は本学会のメンバーでそれぞれ全部床・部分床・Cr&Br補綴学分野から3名が適宜交代で選ばれ、全国的に使用されている教科書、そして何より学会策定の「歯科補綴学用語集」に基づいて各大学から提出された問題のブラッシュアップに取り組んでおります。発足以来とかく問題が指摘されてきたコア

カリキュラムですが、近々、コアカリ自体も部分改定されるとの話です。各先生方が工夫してより適切な運用をされることを期待します。

(東京医科歯科大学 五十嵐順正)

Objective Structured Clinical Examination (OSCE) について

3年間のトライアル期間を経て、2006年度より医療系大学間共用試験が本格的にスタートしました。医学部・歯学部の学生が臨床実習開始前に、臨床実習に参加するのに相応しい臨床上の知識・技能・態度を有しているかどうかを判定する一助とするために、全国の医学部・歯学部が共通して用いるのが共用試験です。この共用試験の実施のために、医療系大学間共用試験実施評価機構という法人が設立され、歯学系OSCEを実施するために、歯学系OSCE実施小委員会および事後評価小委員会の2つの委員会が設けられています。著者は、後者の委員長を務めている関係から、執筆の機会をいただいたものと思います。

OSCE(Objective Structured Clinical Examination)は、臨床的スキルや態度を評価するのに適当な方法とされ、欧米では専門医の認定試験などにも用いられますが、わが国では、知識を評価するCBT(Computer Based Testing)とともに、共用試験に用いられています。

以下、この共用試験におけるOSCEについて記述します。OSCEは、医療面接や臨床上の診察や臨床スキルなどの課題について、臨床をシミュレーションするような環境において行われます。受験生には、課題文を読むのに1分間、そして試験時間5分間が与えられます。評価は、具体的な評価項目ごとに、その項目ができれば1(または

2)点,できなければ0点といった形式でなされます。これとは別に,具体的な評価項目では評価しきれない部分を「概略評定」として評価します。

共用試験 OSCE は,機構で作成された 25 課題のなかから指定された 6 課題を用いて行います。この 25 課題は,1.初診面接,2.基本的診察および検査能力,3.基本的技能,4.説明・指導,5.基本的臨床技能の各分野で構成されています。試験に要求される GIO(一般目標)と SBO(行動目標)は学生にも公開されており,誰でもみることができます。25 課題のうち,補綴関連の課題としては,概形印象採得,支台歯形成,テンポラリークラウンの作製,欠損補綴の治療方針の説明の 4 つがあります。補綴関連の課題は,もう少し増やす必要があるかもしれません。

試験時間が 5 分間と限られているので,実際の臨床のなかのきわめて限られた断片的な状況における能力を評価するのにとどまっています。また,臨床実習開始前に臨床実習を開始するに足る能力があるかを評価するわけですから,支台歯形成にしても,従来補綴学実習で教えてきたように形成の巧拙を問うのではなく,臨床実習で患者さんを対象に形成を行ううえで,処置に応じたポジショニングができるか? 安全性に配慮した操作ができるか? 患者の痛みや不快感に配慮した操作ができるか? 清潔に配慮した操作ができる

か? などの基本的な面を問うものになっています。したがって,今後基礎実習では,単に支台歯形成のデザインや切削の巧拙の訓練を行うだけでなく,患者さんを対象にした臨床実習の場で,安全に支台歯形成を行えるという視点を加えていく必要があるでしょう。すなわち今後は,上述のような臨床上の基本的能力を身につけることを実習の行動目標とする必要があるでしょう。

OSCE は,教育の目的ではなく,私たちが行う一連の教育の一時点において,教育の成果を計る手段でしかありません。OSCE の実施が教育の充実を意味するのではなく,OSCE でいつでも合格点がとれるように普通の教育(試験対策的なものでない)をしっかりと行うことが教育の充実につながります。今後はむしろ,共用試験 OSCE の枠組み(5分間という限られた試験時間内でできること)にとらわれることなく,学生がさらに高い臨床技能および態度を身につけられるように教育することが目標となるでしょう。そのためには,臨床環境での実習を臨床予備実習(登院直前実習)だけで行うのではなく,講義・基礎実習の時間を使って行うところまで拡大する必要が出てくるかもしれません。その意味で,今後は歯科補綴学における基礎実習の内容を見直していく必要が出てくるかもしれません。

(九州大学大学院 古谷野 潔)

第 115 回大会の開催にあたって

大会長 平井敏博
準備委員長 越野 寿

本年 7 月 8・9 日(土・日)の両日にわたって,札幌コンベンションセンター(札幌市白石区東札幌)で開催されます。「(社)日本補綴歯科学会第 115 回学術大会 咬合・咀嚼が創る健康長寿」をお世話させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様ご承知の通り,「第 115 回大会」は年 1 回開催の初回であり,今後の本学会における学術大会のあり方を問われるものと認識しております。まず重要なことは,内容を低下させないことです。学術委員会との打ち合わせを十分に行い,質を担保することが不可欠です。第二に,可及的に多くの参加者数を確保することです。学会運営の観点

から,収支バランスを考慮しなくてはなりません。予算立てが進んでおりますが,二千数百名の登録を予定しております。是非とも札幌の地におい

Happy Smiles & Heartful Communication

デンタルエステをはじめませんか MORITA

- 審美性を追求し,自然感のある透明性と優れた色調再現性を実現しました。
- 操作性と研磨性を向上しました。
- 専用のガラスファイバー「E石ファイバー」を用いることで,メタルフリーブリッジの製作を可能にし,臨床用途を拡大しました。

ハイスリッド セラミック
エステニア C&B

標準価格 スタンダードセット 128,000円
※消費税別 送料別 2150087200534

製造販売元: クラレメディカル株式会社
販売元: 株式会社モリタ
● 各都道府県の代理店は,2006年4月21日現在のものです。
● 標準価格には消費税は含まれておりません。

www.dental-plus.co.jp

くださいますようお願い申し上げます。第三に、社団法人としての社会活動の実践です。人々の健康・福祉の向上に貢献するための市民公開講座を企画しております。社会連携委員会との密接な連携のもとに、ユニークで、有意義なものにするつもりです。ご支援、ご協力をお願いいたします。まず、現在までに確定しております大会プログラムについて、ご紹介いたします。

「特別講演」は、北海道医療大学学長の松田一郎先生にお願いし、「先端医療と生命倫理」との演題をいただきました。また「海外招待講演」を設定しました。少々経費はかさみますが、年1回開催の内容の充実を目指します。演者は、Dr. Peter Svensson(Aarhus 大学,デンマーク)と、Dr. Regina Mericske Stern(Bern 大学,スイス)の2名です。それぞれ「Prosthodontics and orofacial pain: implications for management」、「Biomechanical and epidemiological consideration of implant supported over-denture」が予定されています。ともに、注目されている先生であり、記念すべき大会に相応しい顔ぶれです。ご期待ください。「シンポジウム」は、「時間軸から見たリスクファクターと補綴歯科治療」、「メタルフリー補綴歯科の最前線」、「歯科補綴学教育における模型実習の現状と今後」、「補綴歯科は嚙下障害にどう関わるか?」の4本です。なお、嚙下に関するシンポジウムは、日本顎口腔機能学会および日本顎顔面補綴学会とのジョイント・シンポジウムとなっています。これからの大会のあり方が示されるかもしれません。「研究セミナー」として、「クリニカルパスと症型分類 その2」、「歯科補綴学の統計学：応用編」、「PRPスキルアップセミナー」が組まれています。なお「統計学」は、前回の「基礎編」に引き続き、今回は「応用編」となっております。また、年4号の発行となった「PRP」への投稿に役立つセミナーは、是非とも聞きたいプログラムです。さらに、若い会員を対象とした「臨床スキルアップセミナー」として、「部分床義歯補綴治療を成功させるために」と「支台歯形成の科学」が企画されており、また技工士および衛生士を対象とした各々のセッションも設定されております。なお、二十数題の課題口演、八十題程度の一般口演、百数十題のポスター発表のための時間と会場を準備しております。通常通り、「専門医研修会」、「専門医ケースプレゼンテーション」も行います。非

常に濃い内容となっております。同時に、質の高い口演発表、ポスター発表も楽しみなところです。

次に、大会会場をご紹介します。札幌コンベンションセンターは、2003年夏にオープンした札幌市初の本格的公設会議専用施設です。地下1階地上3階建てで、メインホールとなるコンベンションホール(大ホール)は、シアター形式の場合には2,500人を収容できる広さがあり、種々の条件に対応可能なフレキシブルな機能を併せ持っています。本大会では、この大ホールを両日にわたり「第1・第2・第3」と随時分割し、収容人数に応じて使用します。この他に、第4から第9までの会場を設けてあり、企業展示、休憩・昼食会場などとしても使用します。

会場へのアクセスです。JR札幌駅南口からタクシー20分、地下鉄東西線「東札幌駅」から徒歩5分となっています。札幌の地下鉄は、昭和46年12月、全国4番目として誕生しました。世界で始めて本格的なゴムタイヤによる中央案内軌条方式を採用し、案内軌条をゴムタイヤにより両側を挟み操行するとともに、走行輪にもゴムタイヤを使用しています。一度、試乗されてはいかがでしょうか。なお、市内中心部のホテルからはタクシーが便利でしょうか。料金は千数百円です。

最後に、7月の札幌をご紹介します。この頃の札幌に梅雨はなく、初夏のすごしやすい気候が続きます。花の季節を迎えます。実に快適なシーズンです。皆様のご来札を心からお待ち申し上げます。

札幌でお会いしましょう!



ハイブリッド型硬質レジン
パールエステ 誕生

口腔内でのツヤの
持続を実現!!

真球状のフィラーを高充填

保険適用外 歯冠用硬質レジン(管理医療機器) 承認番号21600BZZ00301000

カタログ請求はインフォメーションサービス

☎0120-54-1182 受付時間 9:00~12:00 / 13:00~17:30
(土・日祭日を除く)

*パールエステは充填用コンポジットレジンではありません

株式会社 **トクヤマデンタル** 本社:〒110-0016 東京都台東区台東1-38-9
http://www.tokuyama-dental.co.jp TEL 03-3835-7201

大会主管校講座紹介 北海道医療大学歯学部歯科補綴学第1講座



私たちの講座は、1978年の本学歯学部設置時に、田村 武教授（日大歯・昭和39年卒）のもとに開講し、1986年10月から、平井が教授を務めています。教員定数は7名ですが、4年次の全部床・部分床義歯補綴学・同実習、5年次と6年次前期の臨床講義・同実習、総合講義、6年次後期の特別講義に加えて、複数講座で分担する「咬合の科学」、「歯科医療行動科学」、「高齢者歯科学」、「歯科審美学」、「歯学英語」、さらには附属歯科衛生士学校の講義と、教育にはかなりの時間を費やしています。

平井は赴任前に、東京医科歯科大学の林 都志夫先生とUCLAのDr. Krishan K. Kapurから、患者の心身を包括した全人的な視野からの義歯補綴治療と、Life cycleの観点からの顎口腔系諸組織・器官と咬合・咀嚼機能に関する研究の必要性を教わりました。このことは、本講座における研究に強く影響しています。加えて、赴任数年後に、厚生省・日本歯科医師会・日本歯科医学会が三位

一体となって展開を開始した「8020運動」は、われわれの研究への大いなる勇気づけとなりました。すなわち、高齢者における咬合・咀嚼機能の維持・管理の重要性がQOLの観点から強調されたことです。

研究費にも比較的恵まれてきました。赴任直後の大学特別研究費を皮切りに、これまでにほぼ切れ目なく文部省あるいは日本学術振興会からの科学研究費をはじめとして、厚生科学研究費などの補助を受けることができ、種々の研究機器を導入できました。また、口腔解剖・口腔生理・歯科理工学講座や薬学部薬理学講座などのご支援も受け、これまでに「顎堤吸収を含む顎口腔系組織・器官の加齢変化および咬合支持と咀嚼動態の変化の顎口腔系へ及ぼす影響についての形態学的、生化学的、組織化学的研究」、「Oral motor behaviorの加齢変化および下顎位・咬合支持と身体運動機能との関連についての運動生理学的研究」、「全部床義歯装着者における咀嚼機能の客観的評価法に関する研究」、「嚥下機能の定量的評価法に関する研究」などを行っております。

これまでも、数回の日本補綴歯科学会東北・北海道支部会や、日本顎顔面補綴学会（1992年）、日本老年歯科医学会（1993年）、日本スポーツ歯学研究会（1993年）、日本歯科審美学会（2000年）、日本顎口腔機能学会（2000年）、日本磁気歯科学会（2001年）、日本全身咬合学会（2005年）を主管していますが、今回のように会員数が6,800名を超える大きな学会のお世話をはじめであり、身の引き締まる思いです。皆様のご支援と、ご協力をお願いします。

（平井敏博）

支部会報告

関越支部学術大会

平成17年度社団法人日本補綴歯科学会関越支部総会ならびに学術大会が、平成18年1月21日（土）に群馬県高崎市ピエント高崎において、新潟大学大学院加齢歯科補綴学分野の野村修一教授を大会長として開催されました。翌日の22日（日）には、同じ会場で生涯学習公開セミナーが行われました。21日の学術大会では、午前中に基礎研究から臨床症例まで広範な内容を含む一般



特別講演をされる山根源之教授

口演 9 題が発表され、充実した質疑応答もみられました。午後には研究教育研修「PRP スキルアップセミナー」として、二川浩樹教授（広大）から英語論文投稿の準備についてわかりやすく具体的なご講演がありました。その後、特別講演として山根源之教授（東歯大市川総合病院歯科・口腔外科）から「全部床義歯補綴の難症例を考える - 高齢者の口腔粘膜疾患への対応 - 」を講演していただきました。われわれが日頃見落としがちな粘膜疾患の診断と治療法を、補綴歯科治療との関連の観点からお話していただきました。豊富な症例の供覧と理解しやすい解説によって、講演時間があっという間に過ぎてしまいました。

翌 22 日には生涯学習公開セミナーが「全部床義歯補綴の難症例を考える - 解決の Key はこれだ - 」をテーマに開催されました。まず座長の塩澤恭郎先生（前橋市開業）から、このセミナーのねらいが説明されました。全部床義歯補綴治療は無歯顎という状態から上下顎に完全な歯列弓を作り上げ機能させるので、総合力が求められる。総合力は各ステップにおける基本の積み重ねによって生まれてくるので、今回の「古くて新しいテーマ」に対して、術式の基本を再確認することで「解決のキー」を探ろうとするのがねらいであること、また、21 日の関越支部学術大会での特別講演と共通のテーマとしたのは、全部床義歯が装着される「場」としての顎堤や周辺の口腔粘膜の診断とその対応という山根教授の講演を受けて、どのようにして全部床義歯を作り上げ、補綴歯科治療を進めていくかを考えるためとの説明でした。次いで、加藤一誠教授（松歯大院）からは「全部床義歯における印象採得の要点 - 上顎と下顎の印象採得のコンセプトは異なる - 」、大川周治教授（明海大）からは「全部床義歯における咬合採得の要点」と題する講演が行われました。両講師によるご講演の後のディスカッションでは、学会終了間近にもかかわらず会場の参加者も含めて活発な意見交換が行なわれました。

今回の学術大会は群馬県歯科医学会との併催で行われたので、両日ともに（社）日本補綴歯科学会社員と群馬県歯科医師会会員の先生方から多数参加していただきました。

最後となりましたが、本学会の準備、設営に多大なご協力をいただきました群馬県歯科医師会の先生方に心からお礼申し上げます。

（新潟大学大学院 佐藤一夫）

関西支部学術大会



江藤大会長から感謝状を渡される藤本先生

平成 18 年 1 月 28 日（土）・29 日（日）の両日、平成 17 年度（社）日本補綴歯科学会関西支部総会並びに学術大会が、江藤隆徳支部長（大阪歯科大学附属病院口腔インプラント科）を大会長として、（社）京都府歯科医師会の後援をうけ、京都府歯科医師会口腔保健センター（京都市）において開催されました。

今年度は生涯学習公開セミナーを併催するため一般口演を 2 日間にわけて開催されました。一般口演は 28 日の午後と 29 日の午前に開催され、28 日に 6 題、29 日に 11 題の計 17 演題の発表があり、活発な議論が繰り広げられました。28 日の一般口演終了後に研究教育研修として「PRP のスキルアップセミナー」が開催され、講師の中村隆志先生（阪大院）から、わが国の歯科補綴学分野における研究成果を国際的に紹介することを目的として発行されている PRP の紹介と概要について、さらに投稿規定や査読、英語論文の具体的な書き方などについて詳しく解説していただきました。

29 日午前には一般口演と並行して「認定医申請ケースプレゼンテーション」の審査が行われました。認定医申請ケースプレゼンテーションは 6 題あり、2 部屋に分かれて行われました。6 演題の内 3 題はインプラントに関する症例でした。29 日の午後には「生涯学習公開セミナー」がシンポジウム形式で行われ、「補綴治療における咬合」をメインテーマとし江藤隆徳支部長を座長に、講師として矢谷博文先生（阪大院）には「顎関節症と咬合」のテーマで、顎関節症と咬合の関連性についてライフワークを基にした研究データや統計など学術的に詳しく解説していただきました。藤本順平先生（東京支部）には「補綴治療における “ Longevity ” の実現 - 咬合の安定と精度の維

持 - 」のテーマで、多くの長期にわたる臨床例から補綴治療の長期成功の条件について咬合を中心に講演されました。日常臨床におけるテーマであることから、(社)日本補綴歯科学会会員以外の先生方も多数参加され、活発なディスカッションが行われました。

また、平成 18 年 2 月 26 日(日)に、(社)京都府歯科医師会の後援をうけ、ぱるるプラザ京都(JR 京都駅前)において、「市民向け公開セミナー」が開催されました。市民の皆様は「補綴(ほてつ)」という言葉を知りていただくため、メインテーマとして、「歯からはじまる健康生活 美しい口元で心豊かな人生を」を掲げ、講師として末瀬一彦先生(大歯大歯技専)にホワイトニングから各補綴法などについて講演していただきました。あいにくの雨でしたが、市民の皆様から今度はいつ開催するのかといった質問も受け、盛会裡に終了しました。

(大歯大 岩田光生)

東関東支部学術大会

平成 18 年 2 月 19 日(日)に、東関東支部の平成 17 年度総会ならびに第 9 回学術大会が千葉県歯科医師会の千葉歯科医学大会との併催により、千葉市の幕張プリンスホテルにおいて開催されました。東京歯科大学歯科補綴学第一講座の櫻井 薫教授を大会長として開催されたこの学会では、一般演題 13 題、認定医申請ケースプレゼンテーション 4 題に加え、研究教育研修として広島大学歯学部二川浩樹教授による「PRP のスキルアップセミナー」が行われ、200 名の参加者を得て、活発な学術大会となりました。また、県民公開講座として学校法人服部学園理事長・校長、服部栄養専門学校・校長である医学博士の服部幸應先生による「食育のすすめ～大切なものを失った日本人～」と題した講演が行われました。さすがに著名人による講演とあって、会場の 320 席はすべて満席、立見も含めておよそ 400 名の参加者で、文字どおり立錫の余地もない盛況でした。少子化の家族のなかでの心身の発育と食のあり方といった話は歯科に密接に関連する興味深い内容で、聴衆に歯科への関心を高めていただくのに十分な内容でした。このような規模での公開講座は歯科医師会との連携ならではのものであり、社会連携の一環としてきわめて有意義な機会となりま



県民公開講座で講演される服部幸應先生

した。

(東京歯科大学 櫻井 薫)

東京支部学術大会

平成 18 年 3 月 4 日(土)と 18 日(土)の 2 日間、松村英雄教授(日大歯)を大会長として第 9 回東京支部学術大会ならびに生涯学習公開セミナーが開催されました。4 日のシンポジウムでは「補綴治療の要点」というテーマで石上友彦教授(日大)、細田透先生(東京支部)、五十嵐順正教授(東医歯大院)が講演されました。会場を日本大学会館に移した 18 日には教育講演 2 題「専門性を生かしたクラウン・ブリッジの臨床」〔講師：古屋良一教授(昭和大)〕、「専門性を生かした無歯顎補綴の臨床」〔講師：祇園白信二教授(日大)〕、PRP のスキルアップセミナー〔講師：二川浩樹教授(広大)〕、生涯学習公開セミナー 3 題「磁性アタッチメントの臨床について」〔講師：石上友彦教授(日大)〕、「磁性アタッチメントの可撤性ブリッジへの応用」〔講師：東風 巧先生(千葉県開業)〕、「磁性アタッチメントの長期経過観察」〔講師：河口日出男先生(東関東支部)〕、さらに、一般口演 12 題、認定医ケースプレゼンター

Nobel Biocare
World Tour™
2006
Beautiful Teeth Now™

ぜひ
ご参加
ください

東京 2006年5月19日～21日

会 場 新高輪プリンスホテル

お申し込み www.nobelbiocare.co.jp



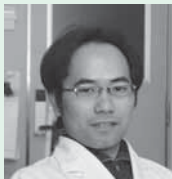
シンポジスト左から細田先生，五十嵐先生，石上先生

ション 8 題と大変盛りだくさんの学術大会となり，盛会裡に終了しました。

(広報 北川)

受賞者の声

第 114 回学術大会
課題口演コンペティション賞



花田俊士（岡大院）
「義歯床下骨組織の吸収に
対する Bisphosphonate
局所投与の影響」

この度は第 114 回学術大会課題口演コンペティションの受賞者に選出していただき，大変光栄に存じます。現在補綴分野のみならず歯科のあらゆる分野において再生医療に関する研究が数多くなされており，研究に取り組み始めた当時，自分のしていることと比較して大変華やかなものと思えたことを覚えています。しかし，日々臨床や研究に携わるうちに自分の方向性への確信をもち，その結果このような賞をいただくことができたことを大変うれしく思います。

今回われわれは Bisphosphonate の破骨細胞性骨吸収抑制作用に注目して，それを義歯床下骨組織の吸収に対して局所投与し，その有用性を示すことができました。そして現在全身投与で使用されている Bisphosphonate がもっている種々の問題点を局所投与にすることで解消されるのではと考えています。もちろん今回の研究はほんの入り口であり，まだまだ皆さんの課題を残しております。しかし，いずれはわれわれの研究が義歯床下組織へ実用化することはもちろん，再生医療へ

の一助となればとの思いで日々取り組んでおります。

最後に本研究を進めていくにあたってご指導いただいた皆木省吾教授 原 哲也助教授をはじめ，当咬合・口腔機能再建学分野各先生方に深くお礼を申し上げますとともに，今後の一層の努力を皆様にお約束いたします。

関連学会報告

第 24 回日本接着歯学会学術大会

標記の学術大会がメインテーマとして「歯科接着のさらなる可能性を探る」を掲げて鶴見大学歯学部歯科補綴学第二講座の主催で，平成 18 年 1 月 28 日（土），29 日（日）の両日同大学記念館において開催されました。両日も厳寒の中ではあったが晴天に恵まれ，約 300 名の参加者があった。

今回の学術大会では，特別企画として特別講演 1 題とシンポジウム 2 題，それに一般演題 34 題の発表がありました。特別講演（座長：柏田聡明先生）は大会初日に行われ，メタルフリー修復を審美的側面以外から考えるということで，松村光明先生（東京都開業）が「金属アレルギーと審美修復について」講演されました。また 2 日目のシンポジウム 1 「歯科接着と審美修復」（座長：高橋英登先生）では，歯科接着が大きな役割を担っている審美修復の現在を検証するため，コンポジットレジン充填を中心に宮崎真至先生（日大歯科保存学），ラミネートベニアを中心に北原信也先生（東京都開業）がそれぞれ講演されました。宮崎先生は市販されている多くの接着システムを紹介し，どのシステムを使用するにしても材料そのものや使用する環境，さらには術者の製品に対する理解度や技術などのテクニクセンシティブ因子が最終的な完成度に大きく影響すると解説されました。また，北原先生は審美的要求の高い患者さんとどのように向かい合っているか，その要求にはどのような内容が含まれるか，それを実際にどのように解決しているかについて具体的に示されました。

シンポジウム 2 「失活歯における咬合面の修復法を探る」は，コンポジットレジンの機械的性質の顕著な向上と歯質への強固な接着そして改善さ



シンポジストの宮崎真至先生，北原信也先生
座長の高橋英登先生

れた審美性を背景として，失活臼歯の咬合面にレジンによるさまざまな修復が展開され始めている現状をとらえて企画されました．今回は問題提起に主眼がおかれ，それぞれ異なった立場からの発表でした．すなわち，最初に福島俊士（鶴見大）がこのテーマに関する過去の取り組みを臨床例を中心に紹介し，次に二階堂徹先生（東医歯大う蝕制御学）がレジンコーティング法を中心に据えた臼歯咬合面の新しい修復法について解説し，最後に真鍋顕先生（香川県開業）が患者の年齢や病変の程度により Minimal Intervention の適用に限界のあることなど，歯科補綴的な立場からの意見を開陳しました．

一方，一般演題では，この学会らしく新しい材料，術式，そしてそれらの臨床成績の発表が相次ぎ，臨床の現場にいる歯科医師や歯科技工士だけでなく，関係各社の研究者，開発者を交えて熱い討論が展開されました．

（鶴見大学 福島俊士）



熱気あふれるポスター会場

関連学会案内

第 47 回日本歯科理工学会学術大会

日 時：平成 18 年 4 月 22 日（土），23 日（日）

会 場：タワーホール船堀

大会長：中島 裕

（明海大学歯学部機能保存回復学講座）

連絡先：〒 350-0283 埼玉県坂戸市けやき台
1-1

明海大学歯学部機能保存回復学講座

歯科生体材料学分野

（準備委員長：日比野 靖）

TEL：049-279-2761

FAX：049-287-8260

E-mail：d-master@dent.meikai.ac.jp

第 17 回日本老年歯科医学会学術大会

日 時：平成 18 年 6 月 1 日（木），2 日（金）

会 場：沖縄コンベンションセンター

大会長：砂川 元

（琉球大学医学部高次機能医科学講座

顎顔面口腔機能再建学分野内）

連絡先：〒 903-0215 沖縄県中頭郡西原町上
原 207

琉球大学医学部高次機能医科学講座顎

顔面口腔機能再建学分野

（準備委員長：新崎 章）

TEL：098-895-1192

FAX：098-895-1431

E-mail：dental@jim.u-ryukyu.ac.jp

第 17 回日本スポーツ歯科医学会学術大会

日 時：平成 18 年 7 月 15 日（土）、16 日（日）
会 場：岩手県歯科医師会館
大会長：石橋寛二
（岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座）

連絡先：〒 020-8580 岩手県盛岡市中央通
1-3-27
岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座
（準備委員長：塩山 司）
TEL：019-651-5111（内線 4127）
FAX：019-654-3281
E-mail：shioyama@iwate-med.ac.jp

第 1 回国際顎関節学会ならびに 第 19 回日本顎関節学会学術大会

日 時：平成 18 年 7 月 19 日（水）～ 21 日（金）
場 所：名古屋国際会議場
大会長：亀山洋一郎
（愛知学院大学歯学部病理学講座）

連絡先：〒 464-8650 愛知県名古屋市千種区
楠元町 1-100
愛知学院大学歯学部病理学講座
（準備委員長：栗田賢一）
TEL：052-757-6736
FAX：052-751-2568
E-mail：tmj@sdent.aichi-gakuin.ac.jp

第 14 回日本歯科色彩学会学術大会

日 時：平成 18 年 7 月 29 日（土）、30 日（日）
会 場：清稜山倶楽部
大会長：天野義和
（奥羽大学歯学部歯科保存学講座）

連絡先：〒 963-8611 福島県郡山市富田町字
三角堂 1-1
奥羽大学歯学部歯科保存学講座
（準備委員長：佐々木重夫）
TEL：024-932-8931
FAX：024-938-9192
E-mail：ohuhospi@alpha.ocn.ne.jp

お知らせ

- *（社）日本補綴歯科学会のホームページアドレスが変わりました。
新 URL：http://www.hotetsu.com/
お気に入りへの登録変更，アクセスおねが
しいたします。
- *会員向けホームページがリニューアルしま
した。
- *ホームページから入会手続きができるよ
うになりました。
- *Letter for Members 表紙の左中央に，「 - 」
印を付けました。
綴じ込み，パンチングの際にご利用ください。

（社）日本補綴歯科学会のブログは携帯からもア
クセスできます。是非一度，ご覧ください。
<http://blog.hotetsu.jp/>

社団法人 日本補綴歯科学会 広報委員会

委員長 石橋寛二

副委員長 佐藤 博信

委 員 北川 昇 田中昌博

谷口 尚 細木真紀

幹 事 金村清孝

TEL：019-651-5111（内 4127）

FAX：019-654-3281

E-mail：koho@iwate-med.ac.jp

〒 020-8505 岩手県盛岡市中央通 1-3-27

岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座

写真公募！

「補綴（ほてつ）シャッターチャンス！ 2006」

「補綴～ほてつ～のある風景」

（社）日本補綴歯科学会では、現在会員向け HP のリニューアルを進めております。今回、会員の皆様とホームページをつなぐ「補綴（ほてつ）シャッターチャンス！ 2006」の写真を公募し、入選作品を学会 HP のデザインとして採用することとなりました。

募集期間

2006 年 6 月末日必着

応募のテーマ

「補綴～ほてつ～のある風景」

- ・ 補綴にかかわる人、光景
- ・ 補綴から連想される物
- ・ 人物、笑顔、口元
- ・ 歯科医師、歯科スタッフ、患者様、学生、
- ・ 加工写真、イラスト等も OK！

応募作品

ご自身でお撮りになった物、または作成した物に限らせていただきます。

作品規格

Jpeg 形式データ（250×500mm，72ppi 以上）または、カラー、モノクロプリント写真、組写真、加工写真も可。なお、すべて横写真に限ります。

応募方法

以下の必要事項を記入し、封書またはメールにてお送りください。お送りいただく写真の裏には氏名を明記してください。

お名前

ご連絡先

電話

作品タイトル

作品の説明

著作権

作品の著作権は（社）日本補綴歯科学会に帰属します。なお、使用できるよう被写体の権利処理を行っていただきますようお願いいたします（被写体が人物の場合は承諾や使用許可をお取りください）。

作品の返却

返却はいたしません。

審査

（社）日本補綴歯科学会広報委員会が行います。

なお、応募いただきました写真は、後に HP 上で公開し、ギャラリーとしてお楽しみいただけるよう計画しております。

応募先：E-mail：kohojs@iwate-med.ac.jp

〒170-0003

東京都豊島区駒込 1 - 43 - 9

（社）日本補綴歯科学会

広報委員会